

会計実践研修 [第1回]

エグゼクティブパートナーズ

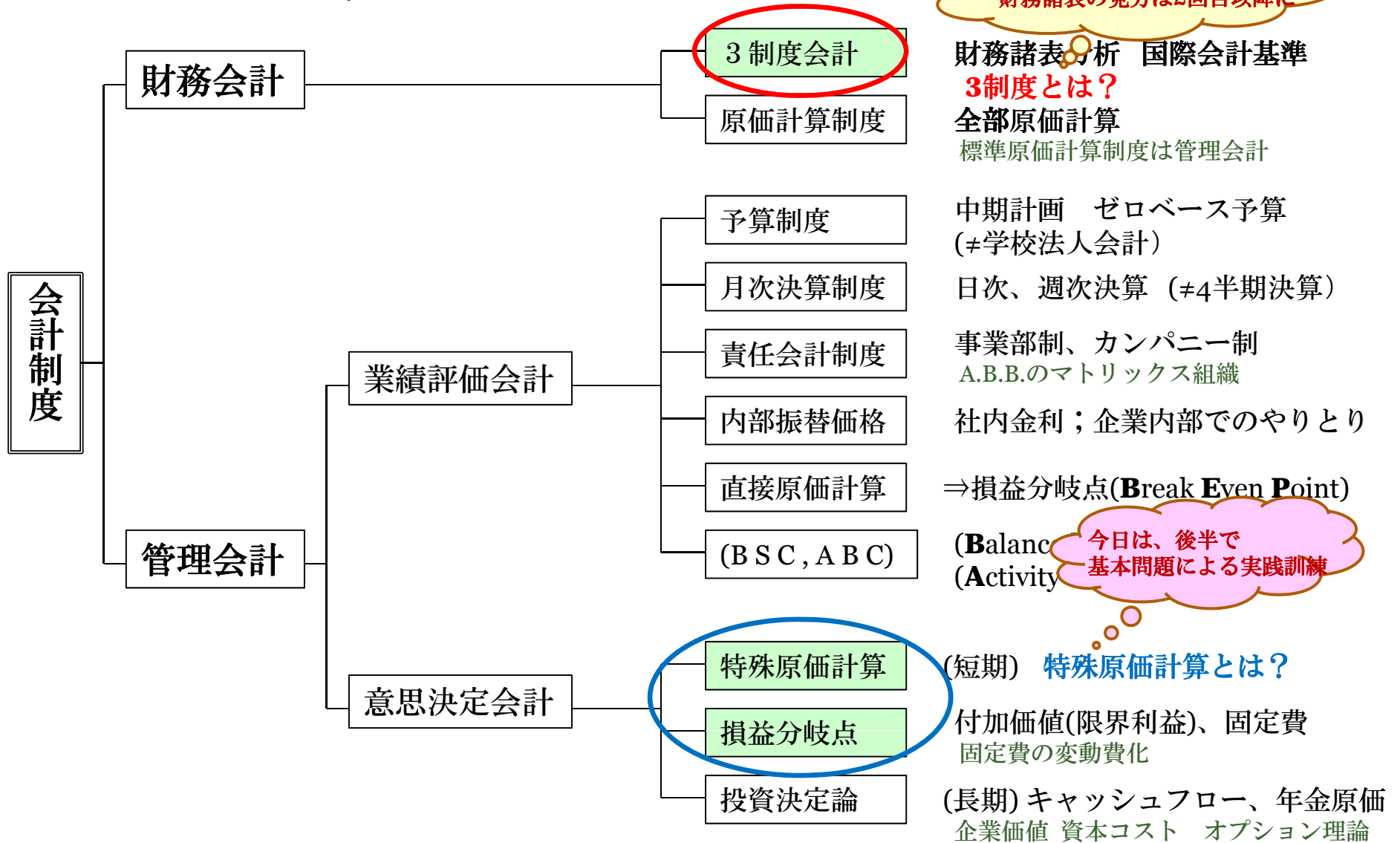
加用久男

2009年11月13日

第1回 1-1 会計概観図

会計について、私なりにまとめてみました
(学問的には諸説あります)

今日は、基礎知識を学ぶ
財務諸表の見方は2回目以降に

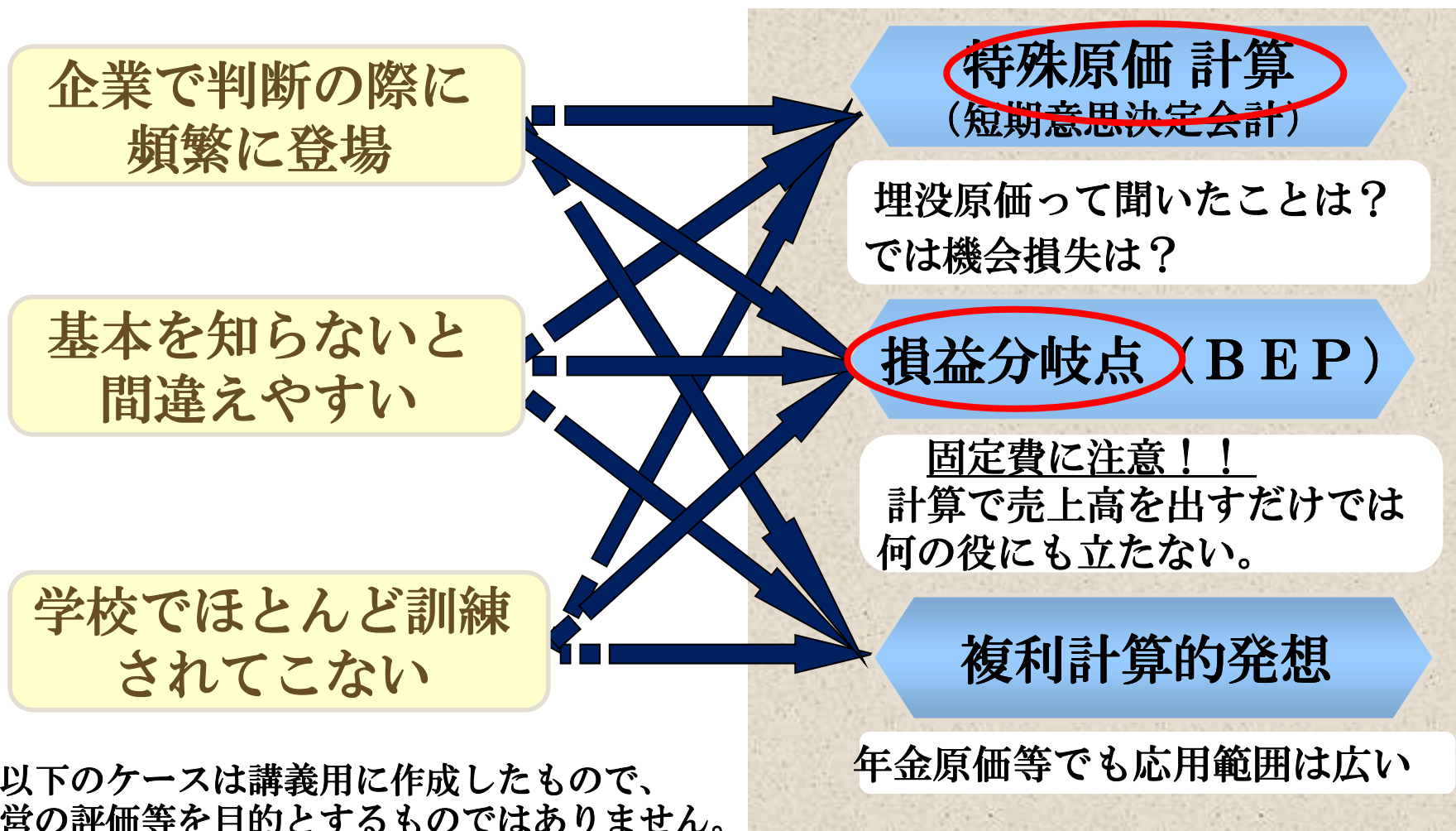


第1回3-1

今日、身に付けてほしい考え方



右下の3つの考え方は、製造業のみで活用されるのではない



※以下のケースは講義用に作成したもので、経営の評価等を目的とするものではありません。

第1回3-2

今日、身に着けてほしい考え方

1 機会損失

Aさんは、今日駅前に開店の家電量販店で、目玉商品として人気ゲーム機が半額の8000円で売られているのを新聞広告で見て、帰りに買おうと家を出た。



2割引



会社での昼休み。同僚がまさにそのゲーム機で遊んでいる。聞くと隣のスーパーで、2割引の12800円で買ったという。一刻も早く欲しかったので、飛んで行って買ってしまった。

質問：Aさんはいくら得をしたのか、あるいは損をしたのか
解答：

解説!!

機会損失の典型的な問題。是非解答のように考えてもらいたい。……

機会損失(Opportunity Loss)

機会損失（費用）は特殊原価の中でも最も重要な事項である。ある案件を採用したために、他の代替案を採用していたら得られたであろう利益を失った金額を云う。

第2回 4-2

今日、身に着けてほしい考え方

損益分岐点の基礎

単価(表)は恐ろしい

質問：1個9万円のコストのものを、10万円で売ったらいくら儲かるか

答え：「1万円儲かる」は正しいですか

10万円で10個売った場合の
経済計算をしてみましょう

財務諸表の損益計算書(全部原価計算)

単位：万円

売上高	100
売上原価	60
売上総利益	40
販売費及び一般管理費	30
営業利益	10

営業外収益

営業外費用

経常利益

特別利益

特別損失

税引き前当期純利益

法人税など

当期純利益

財務会計の損益計算書ではマネジメントは難しい

管理会計の損益計算書
(直接原価計算)

限界利益率60%と仮定=変動費比率40%

質問：11個売った場合は？

答え：

質問：では、売り上げが2個減ったらどうなるか

答え：

※「儲けるための会計」 田中靖浩著 日本経済新聞社を参考に作成

第2回 4 - 1 財務諸表を読むための基礎知識(1)

貸借対照表 (B/S Balance Sheet ; ビー・エス)
と損益計算書(P/L Profit and Loss Statement ; ピー・エル)

決算日(一時点)の
財政状態(ストック)

(当期)
貸借対照表

損益計算書が原因、貸借対照表が結果
という考え方があるが疑問

※「経営が見える会計」田中靖浩 日本経済新聞社

(前期)
貸借対照表

(当期)
損益計算書

期間損益
(フロー)

第〇期決算公告
平成19年〇月〇日
〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇株式会社
取締役社長 〇〇〇〇

貸借対照表の要旨
(平成19年3月31日現在)
(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	5,220	流動負債	5,981
固定資産	4,650	固定負債	1,768
有形固定資産	4,159	退職給付引当金	361
無形固定資産	103	賞与引当金	89
投資等その他の資産	387	その他	1,318
		負債合計	7,749
		純資産の部	
		株主資本	2,068
		資本金	1,000
		利益剰余金	1,068
		その他利益剰余金	1,068
		評価・換算差額等	53
		その他有価証券評価差額金	48
		土地再評価差額金	5
		純資産合計	2,121
資産合計	9,870	負債・純資産合計	9,870

損益計算書の要旨
(自平成18年4月1日
至平成19年3月31日)
(単位:百万円)

科目	金額
売上高	12,630
売上原価	4,510
売上総利益	8,120
販売費及び一般管理費	7,856
営業利益	264
営業外収益	20
営業外費用	85
経営損失	199
特別損失	30
税引前当期純利益	169
法人税・住民税及び事業税	80
法人税等調整額	3
当期純利益	86

年間(本決算) 

四半期 (第一) 

(第二) 

(第三) 

※ 中間報告書

※ 上記のように、日本は年間予想がしやすいといわれる累計方式である点に注意

会計を理解する上で 少し(大変?)難しい3つの問題

- **年金問題**；第2回の研修でも触れましたが、A新聞に特集が連載されました。B社についても第3回で取り上げられています。皆さんは、今は他人事かもしれませんが、この機会の会計面だけでなく、基本的な仕組みも理解するチャンスだと思って読んでください。
- **包括利益**；これも研修で触れましたが、若干説明不足だと思います。意外と早く日本の会計制度に導入されることに決定しました。その影響は、企業経営をも変えるかもしれませんので充分理解してください。

上記資料は、A新聞が素材です。A新聞で十分に会計の先端が学べます

- **税効果会計と繰延税金資産の取り崩し**；これは、研修でも触れていませんが、**企業決算が悪くなると今後も必ず問題となる重要問題**です。しかし、**会計(収益－費用＝利益)**と**税(益金－損金＝課税所得)**との違い、そして**税効果会計**の理解が前提となり、今回の研修期間中にとっても説明しきれません。後のほうは、実際の東芝の前期決算の解説です。若干**私なりに修正してあります**が、是非読みとおしてみてください。

第3回 これまでの基礎知識を踏まえ



財務諸表分析へ

- 1-1 経営数値分析には、数値の絶対額自体を見る方法と比率に加工して比較する方法とがある。

※ 比率による方法がよく使われるが、少子化により市場が縮小するような時代には、
比率による分析だけでは縮小均衡に陥り危険であり、絶対額をもっと重視すべき。

- また時系列で見る方法(トレンド分析)と断面を切って、企業間、産業間、国別等の相対的な位置付けを見る方法(比較分析)があるが、両者を組み合わせてみることも可能である。
- 企業の財務比率は100前後あるが、実際は10いくつしか使われず他の財務比率は主要指数の逆数、それから誘導できるもの、いくつかの組み合わせであったりして、実際には同義のものが多いようである
したがって、まずは大きくつかんでから細部に入っていくべきである
- 財務データは過去データである。したがって、今日現在の状況すら表してはいないことを十分に認識しておく必要がある。
- 業績予測データは、未来の予測である。したがって、過去の事実である財務データ分析とは全く性質の異なるものであると認識すべき。株式市場等はこれに最も関心を示すが、市場・自社の対応能力の予知能力を示すとともに、会社の性格をも表す
- 決算数値情報だけでなく、非定形&非数値情報が重要であることは言うまでもない。数値分析結果に疑問を感じたら非数値情報に当たるべきである
ただ、決算数値情報以上に真偽の見分けが難しいことは心得ておくべき

第3回

セグメント情報を利用した記事

1-3

上場企業のアジア売上高 4～9月 米を抜く 全利益の46%に
2009年12月15日 付け日経ネットは、日本経済の構図が変わってきたことを示すデータを報告している。

『日本の上場企業の収益回復をアジア地域がけん引する構図が鮮明になってきた。主要グローバル企業の地域別収益を分析したところ、2009年4～9月期（上期）のアジアの売上高は初めて米州を上回った。収益性でもアジアは連結営業利益の46%を占め、日本の29%を上回る。日米欧の景気低迷が長期化する中、成長性の高いアジアへの収益依存度は一段と高まりそうだ。』

日本経済新聞社が3月期決算企業（金融、新興3市場を除く）のうち連結の地域別収益を開示し、01年3月期から比較可能な430社を半期ベースで集計した。今上期のアジア（オセアニアを含む）の売上高は16.2兆円と09年3月期の下期（直前下期）に比べ2%減少。これに対して米州は7%減の15.8兆円となり、アジアが米州を半期ベースで初めて上回った。

有価証券報告書、決算短信のセグメント情報;

①事業別セグメントと②所在地別セグメント(在外子会社の売上が10%以上)、③海外売上高(顧客側からみて10%以上を開示、10%以下の場合は「その他」で括られることがある)、そして④1社で10%を超える主要顧客が開示される。

例えば、C社の09年3月期の有価証券報告書では、所在地別、海外売上高は、10%以下なので省略。10%を超える主要顧客とD社)28.5%、E社11.2%が開示されている。

第3回 2 - 6

キャッシュフローの比較

B社

F社

(単位：億円)

07年3月期 08年3月期 09年3月期 3年計

07年1月期 08年1月期 09年1月期 3年計

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	3年計	07年1月期	08年1月期	09年1月期	3年計
売上高	16184	17093	16910		15962	15978	15142	
営業利益	857	891	736	2484	1116	1097	739	2952
営業CF	1361	△157	1098	2302	770	△1753	370	△613
投資CF	△1721	△1233	△1997	△4951	△132	△599	△464	△1195
財務CF	143	1358	965	2466	706	659	736	2101

3年間1度も営業利益を上回っていない

第3回 2 - 8 期初の決算予想とその後の修正

	B社			F社			(単位：億円)
	09年3月期 実績	010年3月期 当初予想	修正予想	09年1月期 実績	10年1月期 当初予想	修正予想	
売上高	16910	15650	15700	15142	14600	13800	
営業利益	736	450	620	739	390	215	
営業利益率	4.4%	2.9%	3.9%	4.9%	2.7%	1.6%	
経常利益	399	450	565	771	385	210	
当期純利益	42	210	240	115	190	60	

増額修正

減額修正

両社とも1200~1300億円の減収だが、利益は大違い
F社は利益率の高いG事業が赤字に⇒不安が現実には？

企業の将来を見るには中期計画にも注目；特にH社の中期計画は見て欲しい

「くめ納豆」は、なぜ潰れたか？



- 1 「くめ納豆」って知っていますか
⇒知らなければ、インターネットで調べてください
- 2 納豆ダイエットへの対処、プライベート・ブランドへの取り組み方等大変興味深いものです
- 3 これを考えるには第一回で学んだ損益分岐点の考え方が大変役に立ちます

是非、自分自身で考えてみてください

トライをした方は
是非、下記にメールを下さい。必ず、意見を添え返信します。